

定例市長記者会見録

日 時：4月24日(木) 午後1時30分～1時55分

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長

報道機関 中日新聞、朝日新聞、共同通信社

本日の案件は四つです。

1番目は「脳卒中センターを開設します～一秒でも早く必要な治療を行うために～」についてです。

これは脳神経外科医が市立市民病院に24時間365日常駐するものです。名古屋大学の脳神経外科との連携を強固にすることで、この4月から7名の脳神経外科医の常勤体制が可能となりました。これにホットラインを導入し、迅速に対応できる脳卒中センターを開設するものです。

脳卒中には、血の塊・血栓による脳梗塞や、血管が切れる脳内出血、脳の血管にこぶができて破裂・出血するくも膜下出血に分けられます。日本人の病気による死因として一番多いのはがん、二番に多いのが心疾患で、三番目がこの脳血管疾患ですので、市としてもしっかり取り組みたいと考えています。なお、ホットラインは基本的に救急隊やクリニック、医療機関から受け付けるという扱いで、一般の方が直接ご利用するものではありませんのでご理解ください。開設は5月7日(水)午前9時からを予定していますので、よろしく願います。

2番目は「一宮市×CAINZ「保護猫の譲渡会」を開催します」についてです。

ホームセンターのCAINZとの保護猫の譲渡会開催のご案内です。CAINZは、ホームセンターの業界ではトップクラスのシェアを誇る業界最大手で、稲沢市に稲沢ハーモニーランド店というショップがあります。そこで、一宮市の動物愛護事業協力団体に登録しているボランティア団体と組んで猫の譲渡会を行います。この取り組みは、環境省が「人と動物の共生パートナーシッププロジェクト『つなぐ絆、つなぐ命』」を打ち出しており、これにCAINZが賛同して参加しています。この環境省のプロジェクトには他にもamazonなどの企業が参加しています。その中で、CAINZは独自プロジェクトとして「くみまち犬猫譲渡プロジェクト」として、地域と組んでいろいろなことをやろう、という取り組みを進めています。店舗自体は稲沢市にありますが、稲沢市は中核市でなく保健所がないので、隣接し独自で保健所を持つ一宮市と組んで「くみまち犬猫譲渡プロジェクト」を行うこととなりました。この5月のイベントでは、つながりのある三つの動物保護団体が参加して、保護猫を引き取っていただける方・育てていただける方を探すというプロジェクトを行うことにしています。

一宮市では、昨年までは四半期ごとの年4回、保護猫の譲渡会を実施していました。会場

は一宮市民会館でしたが、市民会館は今月から老朽化に伴うリニューアル工事に入り、一年半ほど使えなくなりました。そこで譲渡会を実施できる会場を探していたところ、今回ありがたいことにCAINZから協力していただけるというお話をいただきました。5月24日に開催される保護猫の譲渡会により、少しでも猫の殺処分を減らしたいと思っています。一宮市は犬の殺処分はゼロですが、猫はまだ何十匹の尊い命を殺処分という形で対応していますので、なんとか減らしたいと思っています。

3番目は「第二弾！！BISHU FES. ×TGC 地方創生プロジェクト『新規デザイナー発掘プロジェクト』募集開始」についてです。

今年、BISHU FES. は11月8日（土）・9日（日）を予定していますが、ファッション・アート・フードをテーマにしたBISHU FES. とTGC 地方創生プロジェクトのコラボということで、「新規デザイナー発掘プロジェクト」の企画が固まりましたのでお伝えします。なお、この企画は本日TGCを運営している（株）W TOKYOでも同内容の発表をしています。

審査員は4人で、うち池田友紀子さんと金子紗織さんはTGC関係の方です。3人目の原まり奈さんは、若者に人気のブランドoldhoneyのデザイナーです。最後4人目の軍地彩弓さんは業界でも知られる方で、経済産業省の審議会や研究会の委員などもよく務めています。4月5日に大阪・関西万博開幕前の機運醸成イベントとして開催されたマイナビTGC in 大阪・関西万博では、石破総理の衣装監修もこの軍地さんが担い、総理に尾州のジャケットを着ていただきました。その軍地さんにも審査員に入っていただく形でこのプロジェクトを進められることになりましたので、今日発表させていただきます。

賞金は、グランプリで20万円、準グランプリで10万円、優秀賞で5万円です。他にも、グランプリと準グランプリは、2025年冬頃に愛知県のIGアリーナ（名古屋市）で開催が予定されているTGCで受賞作品をお披露目する方向で準備を進めています。早速今日から、対象となる全国の大学や専門学校にも案内をお送りさせていただきます。ポスターだけでなく、尾州の生地見本もあわせて提供をさせていただくことにしていますので、皆さんの参加をお待ちしています。

4番目は「マイナカードの電子証明書の更新、駅ナカプラザ（土日祝）や出張所（平日）でも対応します」についてです。

マイナンバーカードの電子証明書の更新は、今年度からどんどん増えることが予想されます。そこで、平日に来られないという方は一宮駅の「いちのみや駅ナカプラザ」ででき、また、平日は市内10カ所の出張所でも対応できますので、市役所（本庁舎）の混雑を減らしたいなという思いでご紹介させていただきます。マイナンバーカードのICチップに搭載される電子証明書は、マイナ保険証の医療機関のチェックなどでも大変重要な役割を果たします。この有効期限が切れていると、マイナ保険証としても使えないということになりますので、ぜひ有効期限内の更新をお願いします。発行から5回目の誕生日に電子証明の有効期限を迎え、2025年は5万人以上の方の有効期限が切れる見込みです。なお、2026年は4

万人、2027年は9万人近くの方が更新の対象となりますので、一宮市としても窓口を増やすなど準備を進めているところです。「いちのみや駅ナカプラザ」では、今までマイナカードの扱いは土曜日と祝休日だけの対応でしたが、4月からはそれに加えて日曜日も予約制ではありますがマイナカードの交付、電子証明書の発行・更新を行うことにしています。出張所は、平日の午前8時30分から午後5時15分まで、電子証明書の更新対応をさせていただきますので、ぜひお近くの出張所もご利用ください。「いちのみや駅ナカプラザ」も出張所も、電子証明書の有効期限が切れた場合の再発行ができますので、期限が切れたことに気付いた場合でも慌てずに、ご連絡をいただければと思います。

私からの説明は以上です。

質疑応答

■脳卒中センターを開設します ～一秒でも早く必要な治療を行うために～

(記者) 名古屋大学との連携に関する具体的な動きがあるのでしょうか？

(市長) いろいろなことで意見交換、情報交換、接触をしています。昨年もデジタル化の関係で、一宮スマートシティ推進協議会(愛称:i-スマ)の会長に、名大病院ITセンター長の白鳥先生に就いていただきました。医局としても名古屋大学医学部に大変お世話になっています。

(医者) 一宮市立市民病院の脳神経外科は、名古屋大学脳神経外科の医局の関連病院です。今年から連携が特別強固になった訳ではないですが、一宮市の脳神経外科医の数をしっかり確保して、診療していこうという方針が医局から出たことで、市民病院の脳神経外科医が増えることになりました。

(市長) 今回、手厚く対応していただけたことにより、24時間つながるホットラインを新しく来月から設けます。

(記者) 常勤体制が整う前と後で、何がどう変わるのでしょうか？

(医者) 今までは常勤の医師が3名でしたので、24時間365日病院にいるわけにはいかず、基本的には、自宅で待機して、緊急対応が必要であれば、その都度、自宅から病院に戻っていました。これからは、脳神経外科医が最低でも一人は院内にいますので、呼び出してから来るまでの時間が短くなります。

(市長) これまでも医師の不在時にはノーコールで呼び出す体制をとっており、近隣にお住まいの医師はすぐ来られますが、ちょっと時間かかるときもありました。

(医者) 今までも、24時間、誰かは絶対に病院にいたのですが、当直の若い内科医や外科医など、いろいろな科の先生が交代で対応していました。今回、脳神経外科医が診るべき患者を、最初から脳神経外科医が診られる体制になったという利点があります。

(記者) 今回の脳卒中センター開設は、どれくらい珍しい事例なのでしょうか？

(職員) 脳卒中センターとしては、他の救急医療機関でもすでに体制が整っていると思いま

すが、ホットラインに関しては、まだ県内でも少数の開設しか導入されていないという認識です。

(医者) 当院では、ホットラインで脳神経外科医が対応するという点で、他と差別化されま
す。当院は脳神経外科医が多く、緊急時には、基本的に脳神経外科医が直接対応する
ため、対応はより早くなります。

(記者) 7名の方が常勤体制に入るとのことですが、名古屋大学の方ですか？

(医者) はい。名古屋大学の医局に所属している医師です。

■第二弾！！BISHU FES. ×TGC 地方創生プロジェクト「新規デザイナー発掘プロジェクト」
募集開始について ～審査員は、池田氏・金子氏・原氏・軍地氏の4名に決定！！～

(記者) 使う生地は、提供される生地見本の中から選ぶということですか？

(市長) いいえ。それに限りません。

(記者) 生地見本は、デザイン画の参考にしてもらおうということですか？

(職員) 専門学校の方からも助言をいただき、生地見本があった方が生徒たちも服をデザ
インする際にイメージしやすいということで、生地見本を提供させていただきます。見
本の生地は、購入できるように手配することもできます。また、見本以外の尾州生地
で作成することも可能です。

(記者) デザイン画の審査通過後に、デザインの参考に工場へも行くのですか？

(市長) はい。一次審査を通過された約20名の方には、7月に工場を見学していただく予
定です。生地を見ていただき、尾州生地でこのようなものが作れるというイメージを
持っていただく意味合いもあります。

(職員) 購入できる場所にも案内して、実際に購入していただくことも可能です。市内企業
が何社か参加すると思います。

(記者) 改めて、今回のBISHU FES. 「デザイナー発掘プロジェクト」にかける市長の意気
込みを聞かせてください。

(市長) TGCにも柔軟に対応していただき、ありがたいと思っています。十年くらい前は地
方でのTGC開催は、名古屋市や北九州市などの大都市が多かったのですが、一昨年ほ
ど前から、大都市だけでなく、岩手県の一関市や、一宮市の真清田神社での開催など、
地方創生として、いろいろと新しい試みに取り組んでくれています。今回のデザイ
ナー発掘も、一過性のイベントではなく、長くこの地域に根付くもので、より良い刺
激を与えてくれる仕掛けと一緒に取り組んでいただけるので、TGCの柔軟な対応に感
謝しています。

また、世界で活躍してくれるようなデザイナーを発掘して、若年層に尾州や一宮市
の知名度を高められたらと期待しています。